



# 8がつのほけんだより

令和5年度 8月 江上保育園 ほけんだより



## 蚊の予防と対処法

子どもは新陳代謝が活発なので、虫に刺されやすく、肌が弱いと症状が強く出てしまいます。

### 蚊に刺されたときの皮膚の反応

刺されてすぐに赤くなってかゆみが出る場合と、刺されて1～2日で赤くなってかゆみが出る場合があります。新生児期はアレルギー反応が成立していないために無反応ですが、幼児期までは両者の反応が出るといわれています。実際には個人差があります。

### 予防のためにできること

やぶ や草むらに近づかない



蚊の発生源や多いところには近づかないようにします。

肌の露出を少なく



虫の多いところに行く際は長袖・長ズボンを着せましょう。

虫よけ剤の使用



虫よけ剤は必要に応じ適切に使用しましょう。



### 虫よけ剤の注意事項



ディートという成分が含まれる場合は、顔には使用しないこと、6カ月未満の乳児には使用しないこと、6ヶ月～2歳未満は一回/日、2歳～12歳未満は1～3回/日 までと使用が制限されています。イカリジンという成分は年齢の使用制限はありませんが、ディート同様、目に入れたり、飲んだり、なめたりしないようにしましょう。

### 蚊に刺されたときの対処法



蚊に刺されてしまった場合は、刺されたところを水で洗い流して清潔にします。かゆみを軽減させるためには、水で濡らしたタオルや保冷剤などを使用して冷やすことがおすすめです。必要に応じてかゆみ止めを塗りましょう。刺されたところをかきこわして細菌に感染すると、とびひになることがあります。



## 夏の感染症に注意しましょう

子どもの夏風邪と呼ばれる感染症は、手洗いなどで、予防を心がけていてもかかってしまうことがあります。症状などを覚えておき、早めに受診して悪化を防ぎましょう。夏に多い感染症の一部を紹介します。

### ヘルパンギーナ

(症状) 急な発熱が出て、2～3日続きます。のどの痛み、よだれが増える、食欲の低下、不機嫌などの症状が見られます。



(対処法) のどの痛みがうまく伝えられない乳幼児では、よだれが多いことも特徴の一つです。のどの痛みにより固形物を嫌がる時は、のどごしのよい食べ物や飲み物を与えましょう。解熱し、飲食が十分にできるようになるまで、お家で過ごしましょう。

### 手足口病

(症状) 口の中や手足などに水疱性の発疹がでます。痛みで水分や食事がとれなくなることもあります。ウイルスの種類によっては、無菌性髄膜炎などの合併症を起こすこともあるため注意が必要です。

(対処法) 脱水を起こさないように水分補給を心がけます。口の中を痛がる時は、刺激が少ない口当たりの良いものを与えましょう。

